

手術成功のKEYポイント これで完璧！ 術前計画

introduction

「Never unprepared」私が敬愛するある先輩が、好きな言葉や座右の銘は何かといった取材で語っていたのを思い出します。その先輩の何事にも準備を怠らないという姿勢に感服しました。物事に慣れが生じると、つい甘く考えて、「どうにかなるでしょう」「出たとこ勝負で」などと奢りが出てしまいます。しかし、そういうことを繰り返していると思わぬケガに遭遇するでしょう。言うまでもなく、それが手術なら大きな問題となります。大きな問題とまででなくても、「イマイチ上手にできなかった」くらいの影響は生じるかもしれません。自分にとっては今後も数ある手術の1回にすぎないとしても、患者にとっては一期一会です。手術には常に全力を注ぎたいものです。

術前準備では、必要な画像情報をもう一度確認し、その病態におけるパターンを推察します。そのときには先人達が考えた傷病型分類が役に立つでしょう。そのパターンに適した対処法を考え、患者の身体診察所見の情報を重ね合わせてその対処法の妥当性を吟味します。同時に骨・筋肉・神経・脈管の形状・走行の個体差や破格などによる思わぬピットフォールがないかを想定し、患者の全身状態の確認も怠らないことが大事です。なかなか大変な作業です。しかし、エキスパートはこの作業を意識的・無意識的に毎行っています。臨床医学は経験学であり、特に外科手術は自ら体験して習得してきたことの積み重ねです。エキスパートも過去には失敗と思える経験をしてきたに違いありません。しかし皆が同じ経験を繰り返すのではなく、エキスパートが経験したことを習って早道をさせてもらいましょう。

本企画では、整形外科医が高い確率で遭遇する基本的・代表的な傷病に対する術前計画をそれぞれのエキスパートに解説していただきました。自らの経験をもとに、初学者に伝えるべきだと考える基本事項と注意点を丁寧に記述していただいています。そのなかには日頃普通に行っている術式も含まれているでしょう。そのようななかにも知らなかった新たな気付きもあるかもしれません。整形外科初学者もそうでない人も日常診療に役立てていただければ企画者として嬉しく思います。

東京女子医科大学整形外科
岡崎 賢